

と多くみられた。合併症として腎被膜下血腫を1例に、熱発を1例に認めた。Dornier MFL 5000は上部尿路結石の破碎治療に有用と思われた。

37. MFL 5000による ESWL の経験

伊野宮秀志, 瀬川 襄 (厚生中央)

平成4年6月～10月までに、ドルニエ MFL 5000にて42名、46個の結石に対して56回の ESWL を施行した。結石の位置は R2・22例, R3・2例, U1・14例, U2・3例, U3・5例でありエコーにて検出不能であった結石は14例であった。結石の大きさは DS2・1例, DS3・25例, DS4・16例, DS5・3例, DS6・1例であった。ESWL の1カ月後において残石なしは76%, 4mm以下の残石ありが8%であった。ESWL の平均回数は1.22回であった。MFL 5000はX線透視による焦点合わせのため中部尿管結石を in situ にて破碎することができ、ESWL の回数もピエゾ効果を利用した機種より少なかった。

38. 結石の Echo 像と ESWL における破碎効果

石引雄二 (千大)

ESWL 実施において結石の破碎効果を予測することは、治療方法の決定に重要であるが、現在まで効果についての検討は少ない。今回結石の Echo 像と破碎効果の関連をみた。手術的に摘出した径10mm～20mm, 108個の尿路結石を用いた。体積は水の容積から計算した。Echo 像を参考に3型に分けた。I型は高輝度の少ないもの、III型は多いもの、II型は中間群とした。破碎効果は EDAP 社製 LT-01 を用い、5Hz にて碎石を行ない、全結石を2mm以下に碎石するのに必要な storage を求め、storage/volume であらわした。MAP は Echo I型に多く、CaOX, CaP 含有結石はII型に多く、UA 含有結石はIII型に多かった。III型は他のものに比し、最も破碎されやすかった。成分別では CaOX 単一結石は破碎され難く、UA は最も破碎されやすかった。

41. 膀胱頸部硬化症の尿水力学的研究

—α blocker 投与によるエネルギー変化—

東條雅季 (成田赤十字)

膀胱頸部径0.6cmの膀胱頸部硬化症患者6人に対し、塩酸テラゾシンを長期投与し、最大尿流時のエネルギー変化を、また自覚症状の変化を Boyarsky の symptom score で判定した。膀胱に対するエネルギー比は外尿道括約筋部で0.69±0.20から0.86±0.10へと有意に増加し (P<0.05), symptom score は terminal dribbling と

total score で有意に改善した (P<0.05)。膀胱頸部径は0.62±0.07cm から0.70±0.12cm へ増大したが有意な変化ではなかった。

43. 陰唇癒着症の1例

中村 剛, 日景高志, 川村健二
須賀喜一 (東京厚生年金)

75歳, 女性。1991年8月頃より排尿困難あり。1992年7月になり症状悪化し7月21日当科初診。左右陰唇が正中で癒着部に癒着し、癒着部下端に小孔を認めた。癒着は極めて強固でありゾンデによる離開は不可能であった。陰唇癒着症と診断し同日入院し、7月27日陰唇剝離術、8月11日陰唇形成術を施行した。8月24日バルン除去したところ排尿困難は消失した。病理学的には扁平上皮の炎症による線維化を認めた。

46. 陰茎癌における HPV 感染と p53 遺伝子変異

鈴木啓悦 (千大)

目的: 陰茎癌発癌における HPV と p53遺伝子の関係を解析。方法: 新鮮手術標本及びパラフィン包埋切片より DNA を抽出。HPV 感染の有無は L1-PCR にて調べ、RsaI・DdeI 処理で型同定。p53 遺伝子変異は PCR-SSCP を用いて解析。結果・考察: HPV 感染は、10例中5例(50%)に確認され文献と類似。型は16型が3例で、稀とされる31, 33型が各1例。p53 変異は調べた4例ともに認めず。

47. 精索平滑筋肉腫の1例

大木健正, 永田真樹, 北村 温
(国立精神・神経センター)
(国府台病院)

症例は60歳, 男性。主訴は無痛性右陰囊内腫瘍。腫瘍は母指頭大からクルミ大のものが精索に沿って外果径輪まで3～4個連なっていた。右精索腫瘍の診断で右高位除辜術を施行。病理組織学的に精索原発の平滑筋肉腫と診断された。術後⁶⁰Co を深部照射した。術後5カ月の現在、再発、転移は認めない。本症例は精索平滑筋肉腫として本邦19例目である。

48. 陰囊内平滑筋腫の1例

鈴木和浩 (済生会宇都宮)

症例は45歳, 男性。左陰囊内無痛性腫瘍を主訴に来院。陰囊部エコーにて左側陰囊中部に精巣・精巣上体および精索とは別個の、境界明瞭な充実性腫瘍を認めた。陰囊皮膚切開にて腫瘍摘出術を施行した。病理組織学的